

● 世界の主な地震

令和 7 年（2025 年）9 月に世界で発生したマグニチュード（M）6.0 以上または被害を伴った地震の震央分布を図 1 に示す。また、その震源要素等を表 1 に示す。

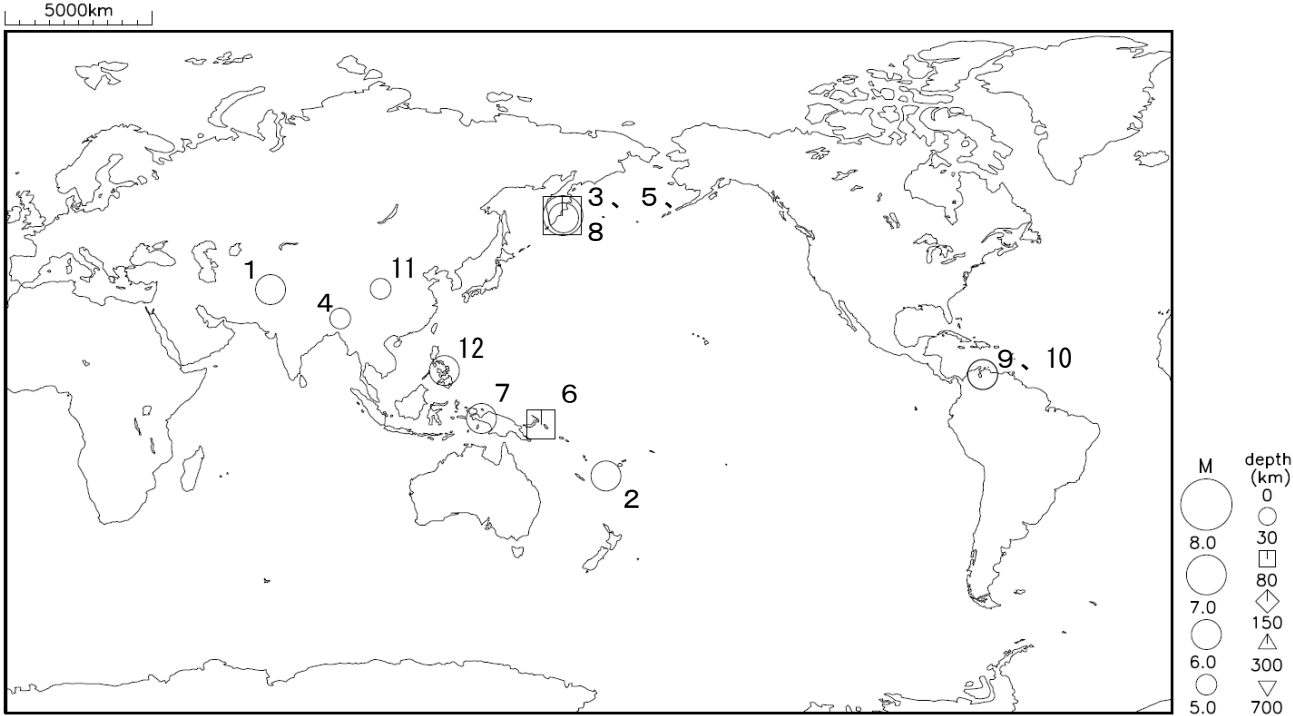


図 1 令和 7 年（2025 年）9 月に世界で発生した M6.0 以上または被害を伴った地震の震央分布

表 1 令和 7 年（2025 年）9 月に世界で発生した M6.0 以上または被害を伴った地震の震源要素等

番号	地震発生時刻	緯度	経度	深さ (km)	mb	Mj	Mw	震央地名	備考 (被害状況など)	北西	遠地
1	09月01日04時17分	N34° 42.6′	E 70° 48.5′	8			6.0 _G	アフガニスタン南東部	死者1,992人など		
2	09月09日06時47分	S21° 1.5′	E173° 42.7′	10			6.4	バヌアツ諸島			
3	09月13日11時37分	N53° 6.2′	E160° 17.6′	39			7.4 _G	ロシア、カムチャツカ半島東岸		○	○
4	09月14日20時11分	N26° 36.3′	E 92° 11.7′	29			5.5	インド北東部	負傷者2人など		
5	09月16日01時34分	N52° 41.5′	E160° 42.1′	24			6.0	ロシア、カムチャツカ半島東方沖			
6	09月17日01時59分	S 5° 24.3′	E153° 49.5′	41			6.0	バブアニューギニア、ニューアイルランド			
7	09月19日03時19分	S 3° 36.8′	E135° 31.5′	10			6.1	インドネシア、イリアンジャヤ			
8	09月19日03時58分	N53° 11.5′	E160° 30.7′	20			(7.8)	ロシア、カムチャツカ半島東岸	津波観測0.28m（マウイ島）など	○	○
9	09月25日07時21分	N 9° 55.3′	W 70° 43.0′	8			6.2	ベネズエラ			
10	09月25日12時51分	N 9° 55.6′	W 70° 41.4′	14			6.3	ベネズエラ			
11	09月27日06時49分	N34° 55.8′	E104° 34.9′	10			5.2	中国、カンスー省	負傷者11人など		
12	09月30日22時59分	N11° 9.0′	E124° 8.2′	10			(6.9)	フィリピン諸島、レイテ	死者68人など	○	○

・震源要素は米国地質調査所(USGS)ホームページの” Search Earthquake Catalog” (<https://earthquake.usgs.gov/earthquakes/search/>) による (2025 年 10 月 1 日現在)。ただし、日本付近で発生した地震の震源要素、Mj の欄に記載したマグニチュード、Mw の欄に括弧を付して記載したモーメントマグニチュードは気象庁による。Mw の欄に下付きで「G」を付して記載したモーメントマグニチュードは、Global CMT による。

・被害状況は、出典のないものは OCHA (UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs : 国連人道問題調整事務所、2025 年 10 月 6 日現在) による。

・地震発生時刻は日本時間 [日本時間＝協定世界時＋9 時間] である。

・「北西」欄の○印は、気象庁が北西太平洋域に提供している北西太平洋津波情報 (NWPTA) (※) を発表したことを表す。
※気象庁ホームページの「国際的な津波監視体制」(<https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/joho/nwpta.html>) 参照。

・「遠地」欄の○印は、気象庁が「遠地地震に関する情報」を発表したことを表す。

・海外の津波の観測値は、米国海洋大気庁(NOAA; National Oceanic and Atmospheric Administration)による (2025 年 10 月 1 日現在)。

7月30日 ロシア、カムチャツカ半島東方沖の地震

2025年7月30日08時24分（日本時間、以下同じ）に、ロシア、カムチャツカ半島東方沖の深さ35kmで Mw8.8（Mwは気象庁による）の地震（日本国内で観測された最大の揺れは震度2）が発生した。この地震により、岩手県の久慈港（国土交通省港湾局）で最大141cmの津波を観測したほか、太平洋沿岸を中心に北海道から沖縄県にかけて広い範囲で津波を観測した。津波の波源域から直接伝わった津波の第一波を7月30日午前中から各地で観測し始め、同日の昼頃からは天皇海山列から反射した津波も観測し始めた。また、太平洋を伝播し、南米沿岸等で反射した津波を、8月1日朝頃から観測した。

なお、気象庁は、この地震に対して、7月30日08時37分に北海道から近畿地方の太平洋沿岸、宮崎県及び小笠原諸島に津波注意報を発表（発表時はM8.0、太平洋津波警報センター（PTWC）による）し、同日09時40分に北海道から近畿地方の太平洋沿岸、伊豆諸島及び小笠原諸島を津波警報に切り替えた（発表時はM8.7、太平洋津波警報センター（PTWC）による）。その後、同日18時30分に一部の津波警報を津波注意報に切り替え、同日20時45分に全て津波注意報に切り替えた。31日10時45分に津波注意報の一部を解除し、31日16時30分に全て解除した。

※震源要素は米国地質調査所（USGS）による（2025年10月1日現在）。

表1 日本国内の津波観測値

都道府県	観測点名	所属	第一波	最大波	
			到達時刻	発現時刻	高さ (cm)
北海道	根室市花咲	気象庁	30日 10:16	30日 14:56	78
	根室港	国土交通省港湾局	30日 11:41	30日 21:26	27
	浜中町霧多布港	国土交通省港湾局	30日 10:20	30日 13:11	59
	釧路	気象庁	30日 10:29	30日 19:48	50
	十勝港	国土交通省港湾局	30日 10:33	31日 01:18	71
	えりも町底野*1	気象庁	30日 10:28	30日 21:14	0.7m
	浦河	国土交通省港湾局	30日 10:50	31日 00:35	24
	苫小牧東港	国土交通省港湾局	30日 11:08	31日 04:33	44
	苫小牧西港	国土交通省港湾局	30日 11:--	31日 10:49	34
	白老港	国土交通省港湾局	30日 11:06	30日 22:23	36
	室蘭港	国土交通省港湾局	30日 11:20	31日 03:23	19
	渡島森港	国土交通省港湾局	30日 11:--	30日 18:24	21
	函館	気象庁	30日 11:17	30日 19:00	42
	稚内	気象庁	30日 11:--	31日 02:18	31
	留萌	国土交通省港湾局	30日 --:--	30日 17:39	17
	石狩湾新港	国土交通省港湾局	30日 --:--	31日 05:23	20
	小樽	気象庁	30日 --:--	31日 05:15	16
	枝幸港	国土交通省港湾局	30日 11:13	30日 21:39	30
	紋別港	国土交通省港湾局	30日 11:00	30日 11:15	30
	網走	気象庁	30日 10:36	30日 15:50	31
青森県	竜飛	海上保安庁	30日 11:25	30日 11:59	10
	むつ市関根浜	気象庁	30日 10:57	31日 00:27	37
	むつ小川原港	国土交通省港湾局	30日 10:45	30日 18:50	41
	八戸港	国土交通省港湾局	30日 10:59	30日 14:39	70
	青森	国土交通省港湾局	30日 12:01	30日 17:58	15
岩手県	久慈港	国土交通省港湾局	30日 10:47	30日 13:52	141
	宮古	気象庁	30日 10:41	30日 15:28	52
	釜石	海上保安庁	30日 10:40	30日 14:14	45
	大船渡	気象庁	30日 10:49	30日 20:31	34
宮城県	石巻市鮎川	気象庁	30日 10:57	30日 19:09	56
	宮城金華山沖*2	国土交通省港湾局	30日 10:46	30日 11:05	0.2m
	石巻港	国土交通省港湾局	30日 11:--	30日 21:02	60
	仙台港	国土交通省港湾局	30日 11:38	30日 23:21	82
福島県	相馬	国土地理院	30日 11:32	30日 19:01	68
	いわき市小名浜	気象庁	30日 11:09	31日 00:25	51
茨城県	大洗*1	気象庁	30日 11:17	31日 02:27	0.7m
	神栖市鹿島港	国土交通省港湾局	30日 11:21	30日 20:46	81
千葉県	銚子	千葉県	30日 11:09	31日 00:52	32
	勝浦市興津*1	気象庁	30日 11:--	30日 17:58	0.4m
	館山市布良	気象庁	30日 11:--	30日 20:06	49
	千葉	海上保安庁	30日 12:32	30日 13:07	15
東京都	東京晴海	気象庁	30日 12:37	30日 15:20	21
	伊豆大島岡田	気象庁	30日 11:23	31日 01:55	16
	三宅島坪田	気象庁	30日 11:--	30日 15:56	39
	神津島神津島港	海上保安庁	30日 --:--	30日 22:16	45
	八丈島神湊	海上保安庁	30日 11:15	30日 15:27	40
	八丈島八重根*1	気象庁	30日 11:--	30日 16:19	1.0m
	父島二見	気象庁	30日 11:56	30日 15:20	49
	横浜	海上保安庁	30日 12:03	30日 13:39	25
神奈川県	横浜賀	海上保安庁	30日 11:40	30日 12:10	15
	三浦市三崎漁港*1	気象庁	30日 11:29	30日 19:55	0.2m
	三浦市油壺	国土地理院	30日 11:24	30日 22:08	22
	小田原	気象庁	30日 11:24	31日 01:48	14
	伊東	国土地理院	30日 11:25	30日 17:06	11
静岡県	下田港	国土交通省港湾局	30日 11:29	31日 00:06	64
	南伊豆町手石港	気象庁	30日 11:37	30日 23:45	39
	西伊豆町田子	国土地理院	30日 11:48	30日 12:15	8
	沼津市内浦	気象庁	30日 11:55	30日 21:48	36
	清水	気象庁	30日 11:51	31日 07:51	14
	焼津	国土地理院	30日 11:--	30日 17:32	25
	御前崎	気象庁	30日 11:57	30日 23:12	41
	舞阪	気象庁	30日 12:12	30日 23:25	20
	田原市赤羽根	気象庁	30日 12:17	30日 22:55	51
愛知県	豊橋市三河港	国土交通省港湾局	30日 13:18	30日 16:21	15
	半田市衣浦	愛知県	30日 13:14	30日 20:16	17
	名古屋	気象庁	30日 13:50	30日 15:34	20

都道府県	観測点名	所属	第一波	最大波	
			到達時刻	発現時刻	高さ (cm)
三重県	四日市	四日市港管理組合	30日 13:20	30日 20:18	11
	鳥羽	気象庁	30日 12:28	30日 23:27	41
	尾鷲	気象庁	30日 12:10	30日 17:23	39
	熊野市遊木	気象庁	30日 12:06	31日 02:48	30
大阪府	大阪天保山	気象庁	30日 14:20	31日 06:24	23
	岬町淡輪	気象庁	30日 13:24	30日 13:51	8
兵庫県	神戸	気象庁	30日 --:--	30日 22:13	8
	洲本	気象庁	30日 13:20	31日 05:15	8
和歌山県	那智勝浦町浦神	気象庁	30日 12:14	30日 22:21	31
	串本町袋港	気象庁	30日 12:17	31日 02:06	54
	白浜町堅田	気象庁	30日 12:29	30日 16:31	32
	御坊市蔵井戸	気象庁	30日 12:35	30日 18:07	42
	和歌山	気象庁	30日 13:08	30日 18:36	16
徳島県	小松島	気象庁	30日 13:03	31日 01:32	25
	徳島由岐	気象庁	30日 12:32	31日 03:21	43
愛媛県	宇和島	気象庁	30日 13:31	31日 03:13	16
高知県	室戸市室戸岬	気象庁	30日 12:25	30日 22:52	48
	高知	気象庁	30日 12:54	31日 03:03	27
	土佐清水	気象庁	30日 12:48	31日 04:07	60
	中土佐町久礼港	国土地理院	30日 12:--	31日 00:19	45
大分県	大分	海上保安庁	30日 13:36	30日 14:35	10

都道府県	観測点名	所属	第一波	最大波	
			到達時刻	発現時刻	高さ (cm)
	別府港	国土交通省港湾局	30日 13:40	30日 14:29	14
	佐伯市松浦	気象庁	30日 13:05	30日 21:24	16
宮崎県	日向市細島	宮崎県	30日 12:40	30日 22:30	22
	宮崎港	国土交通省港湾局	30日 13:04	31日 05:40	58
	日南市油津	気象庁	30日 12:59	31日 00:57	42
鹿児島県	南大隅町大泊	海上保安庁	30日 13:17	30日 17:48	44
	志布志港	国土交通省港湾局	30日 13:16	31日 06:39	52
	種子島西之表	海上保安庁	30日 13:13	30日 17:39	33
	種子島熊野	気象庁	30日 12:58	30日 17:13	57
	中之島	海上保安庁	30日 --:--	30日 18:20	42
	奄美市小湊	気象庁	30日 13:19	30日 16:31	64
	奄美市名瀬	海上保安庁	30日 13:--	30日 16:33	37
	枕崎	気象庁	30日 13:54	30日 18:27	42
	阿久根	国土地理院	30日 14:--	30日 18:08	10
沖縄県	那覇	気象庁	30日 --:--	31日 06:38	12
	沖縄市中城湾港	内閣府	30日 13:35	30日 22:55	16
	南城市安座真	国土地理院	30日 13:--	30日 17:45	12
	南大東漁港	気象庁	30日 --:--	30日 20:25	9
	石垣島石垣港	気象庁	30日 --:--	30日 22:49	14
	宮古島平良	内閣府	30日 14:27	31日 01:16	19

－ は値が決定できないことを示す。

※観測値は後日の精査により変更される場合がある。

※所属機関の観測波形データをもとに気象庁が検出した値。

*1 は巨大津波観測計により観測されたことを示す（観測単位は0.1m）。

*2 はGNSS波浪計により観測された海面昇降を検潮所の観測値と同様の手法で読み取った値を示す（観測単位は0.1m）。沖合で観測された観測値であり沿岸では津波は更に高くなる。

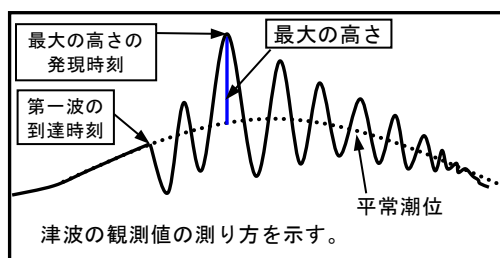


図1 津波の測り方の模式

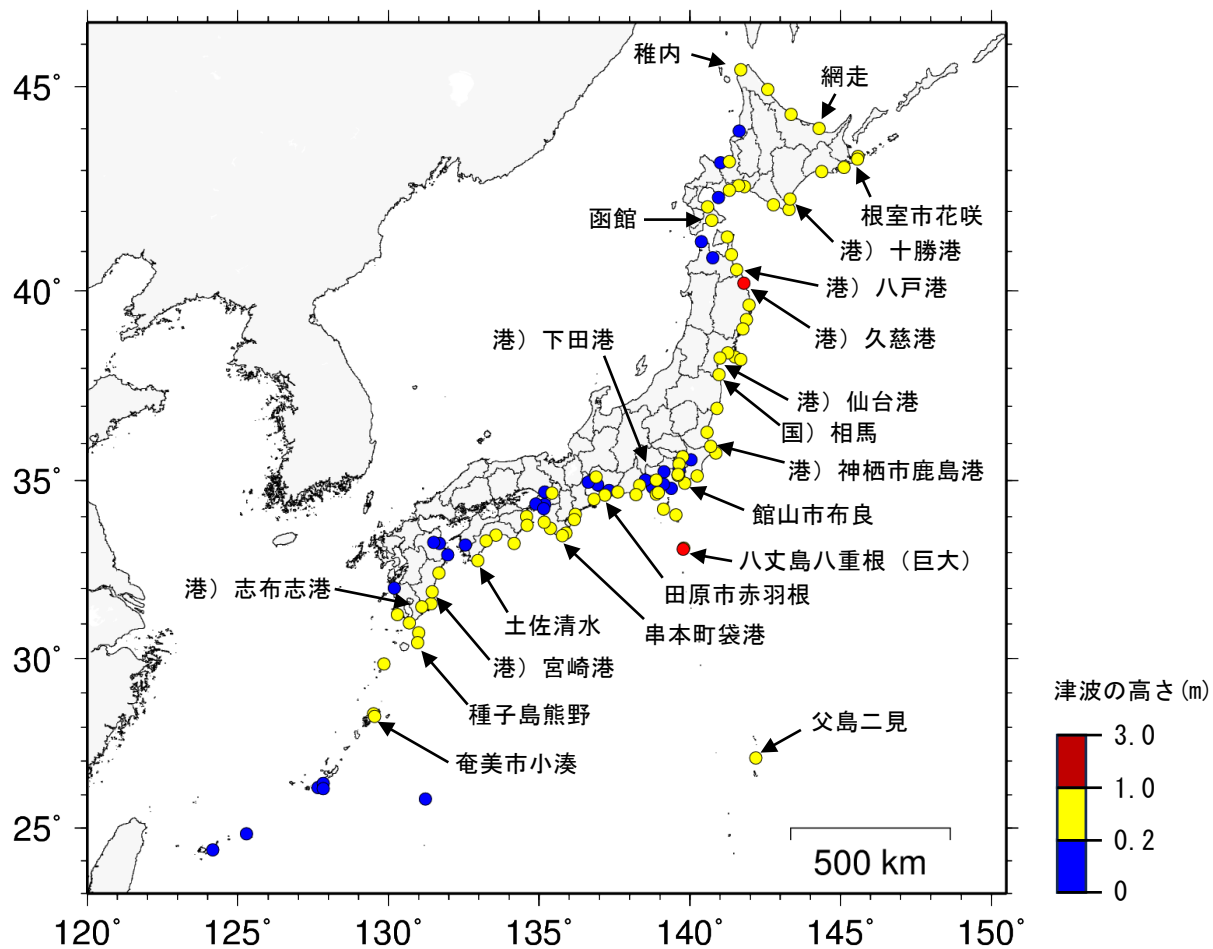
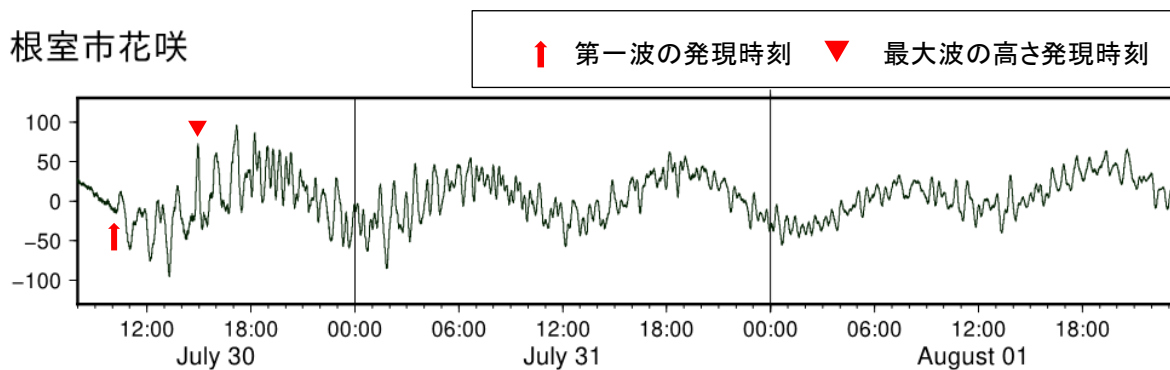


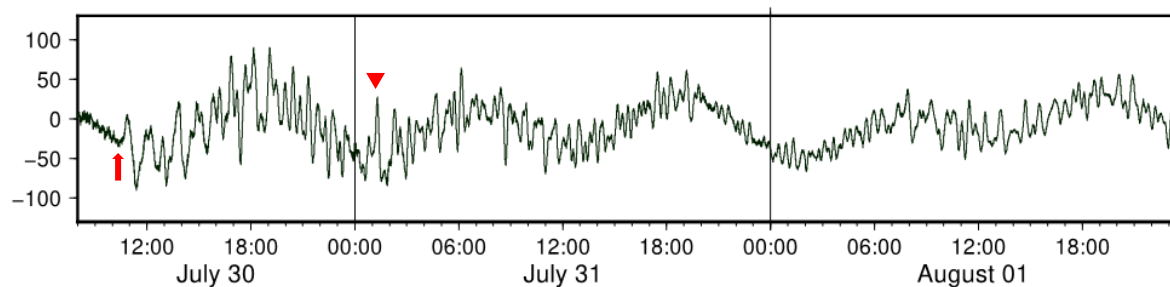
図2 津波を観測した地点

※ 港) は国土交通省港湾局、国) は国土地理院の所属であることを表す。

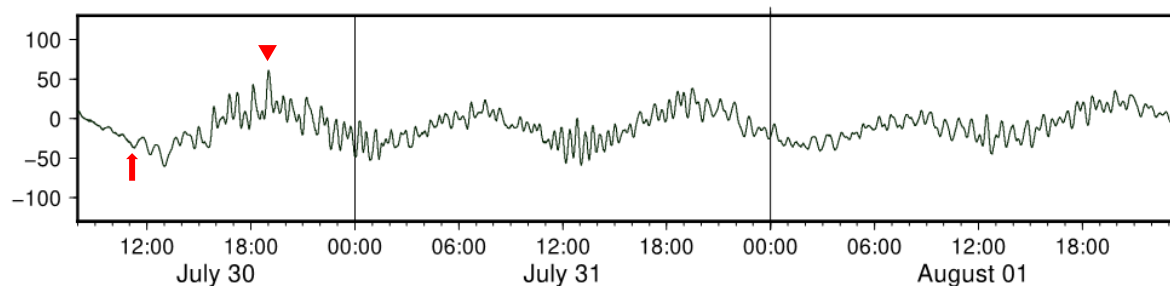
根室市花咲



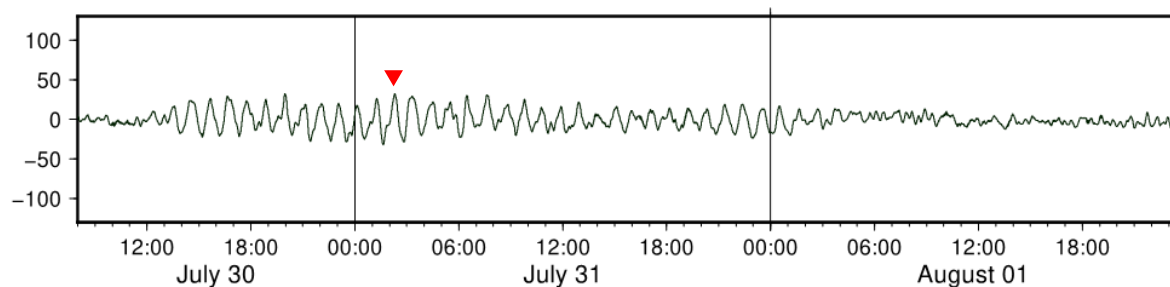
港) 十勝港



函館



稚内



網走

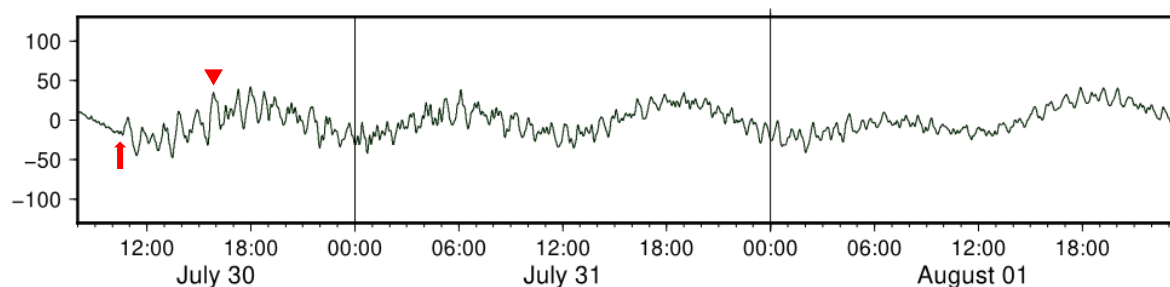
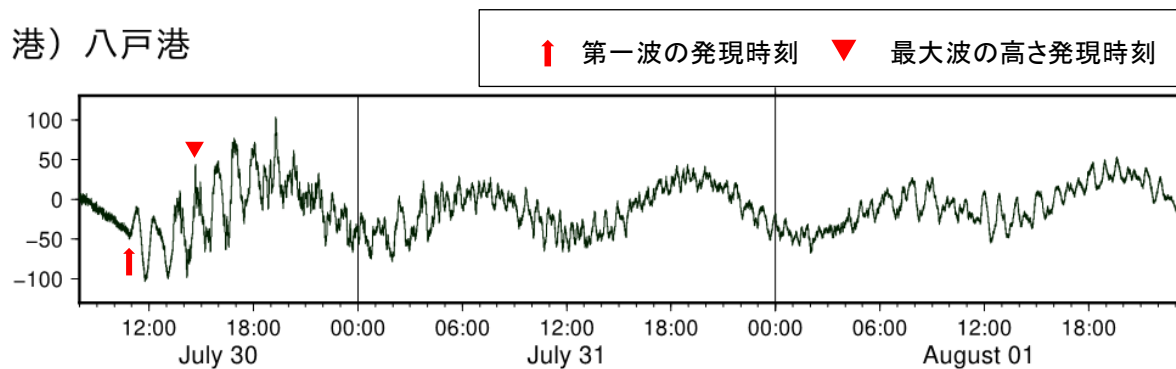
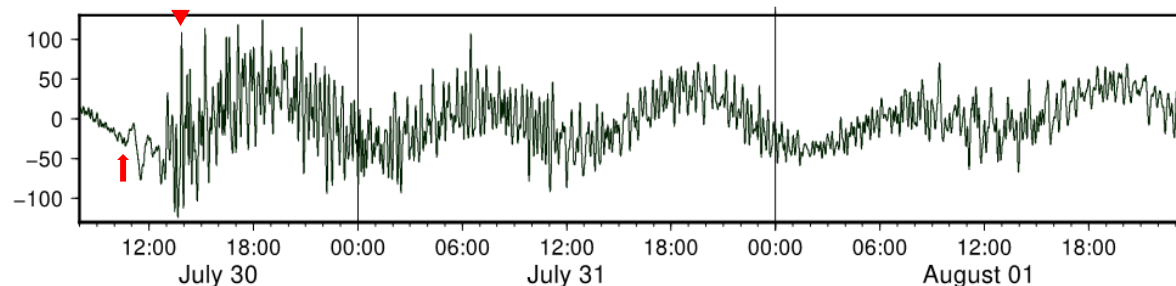


図3 日本国内の主な津波波形（2025年7月30日08時から8月1日23時30分まで）（続く）
縦軸は津波の高さ（cm）。港）は国土交通省港湾局の所属であることを表す。

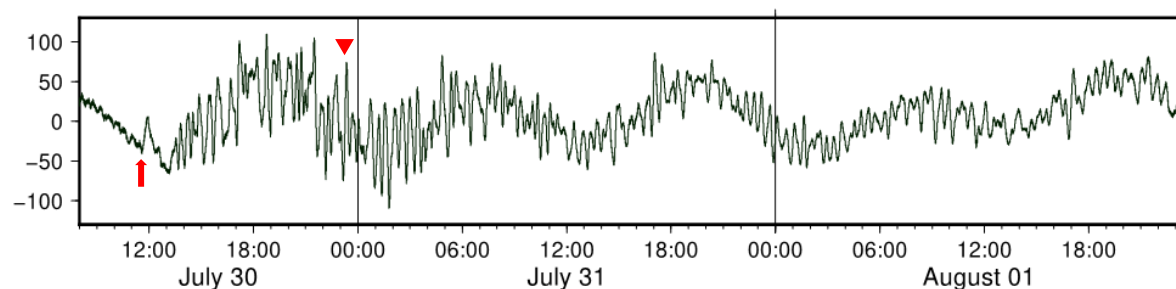
港) 八戸港



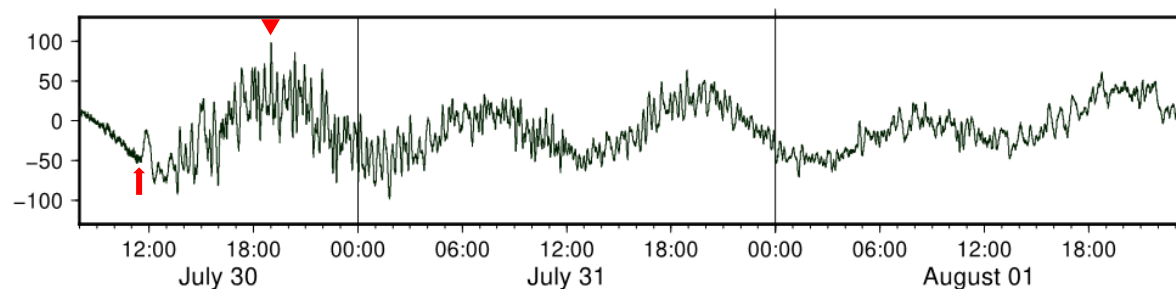
港) 久慈港



港) 仙台港



国) 相馬



港) 神栖市鹿島港

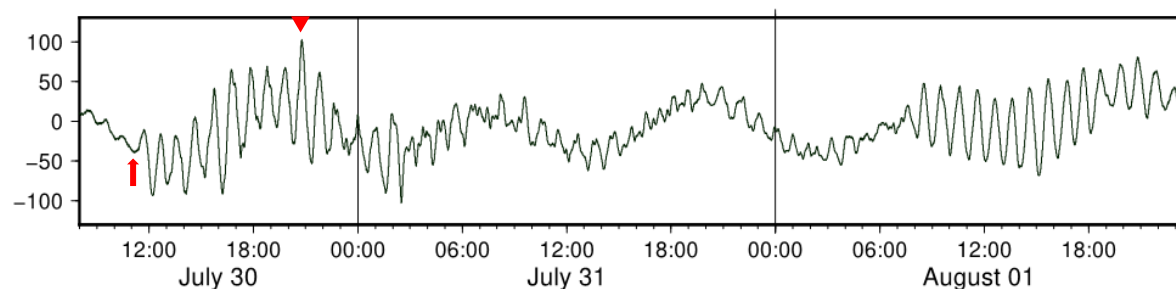
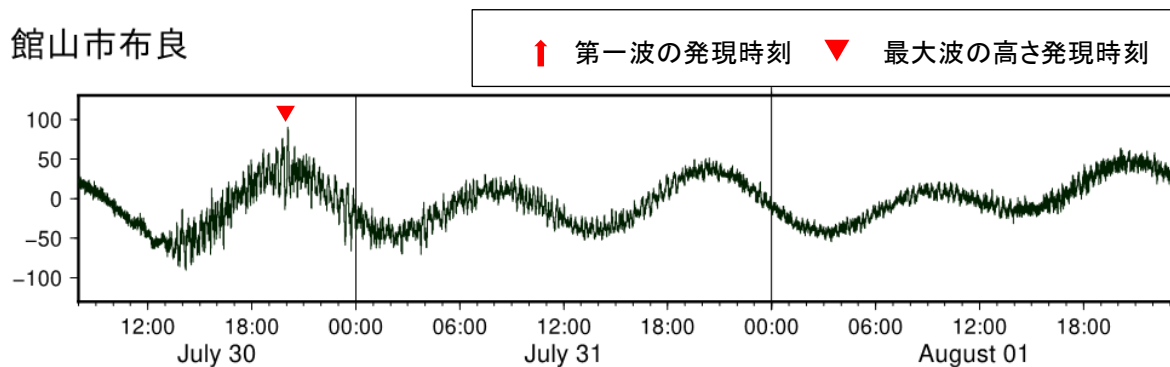


図3 日本国内の主な津波波形 (2025年7月30日08時から8月1日23時30分まで) (続き)

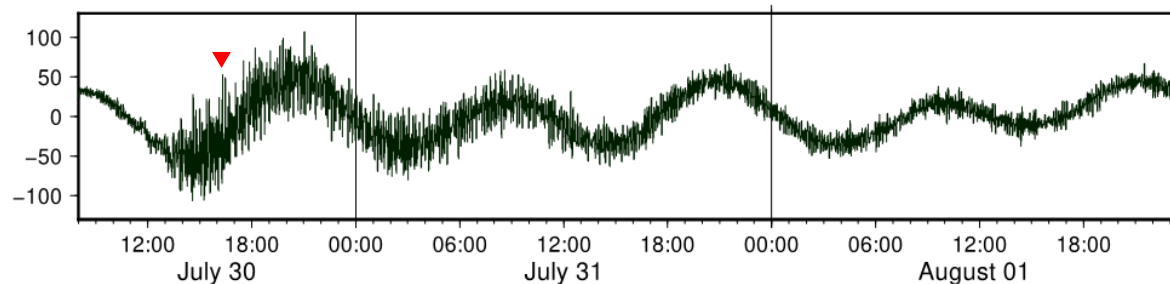
縦軸は津波の高さ (cm)。港) は国土交通省港湾局、国) は国土地理院の所属であることを表す。

気象庁作成

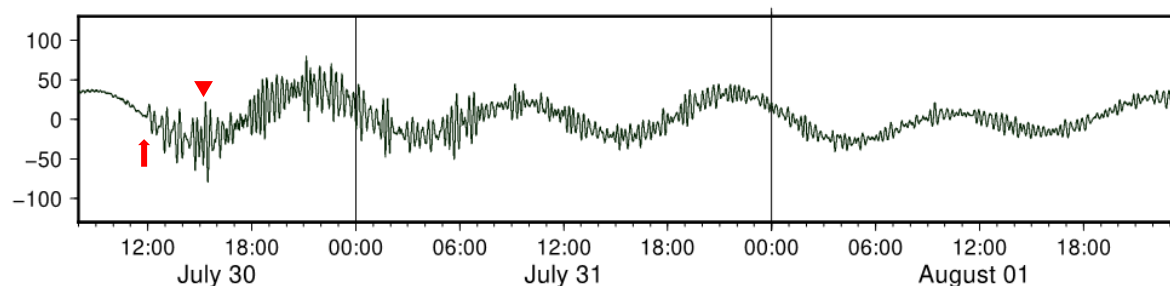
館山市布良



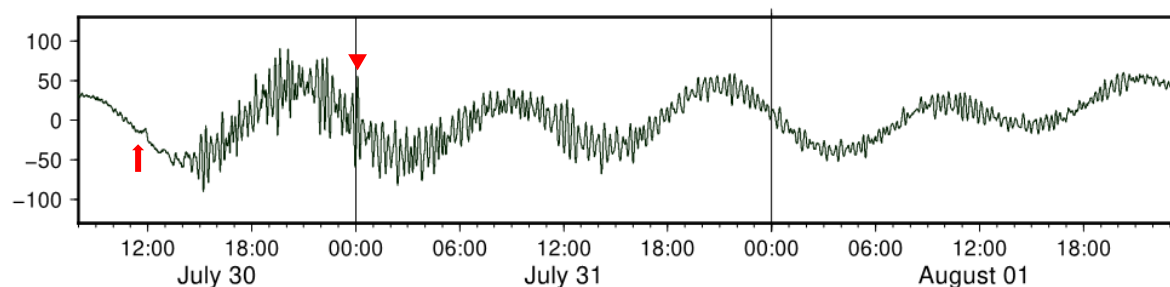
八丈島八重根（巨大）



父島二見



港) 下田港



田原市赤羽根

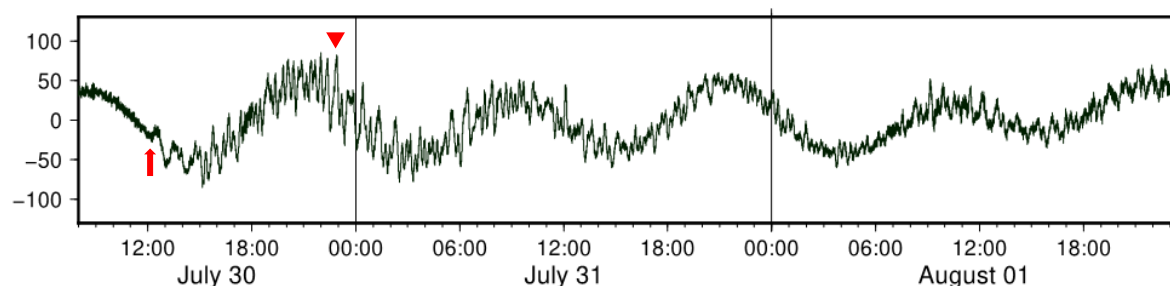
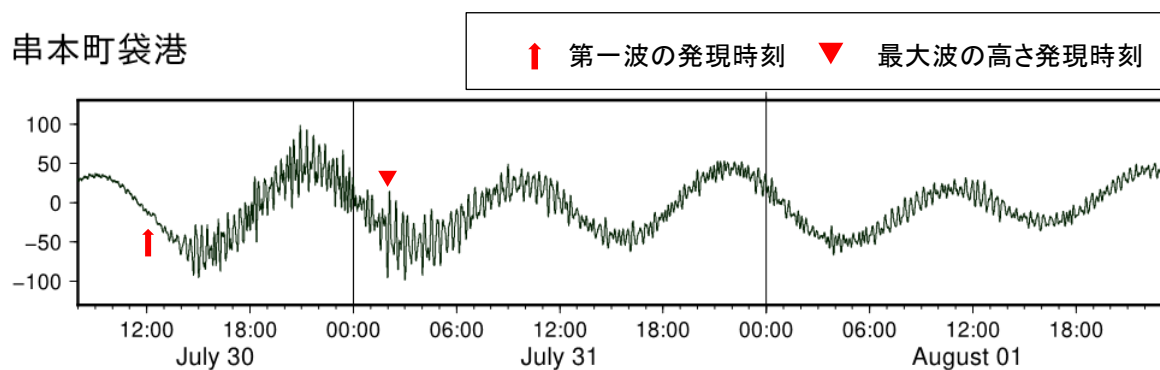
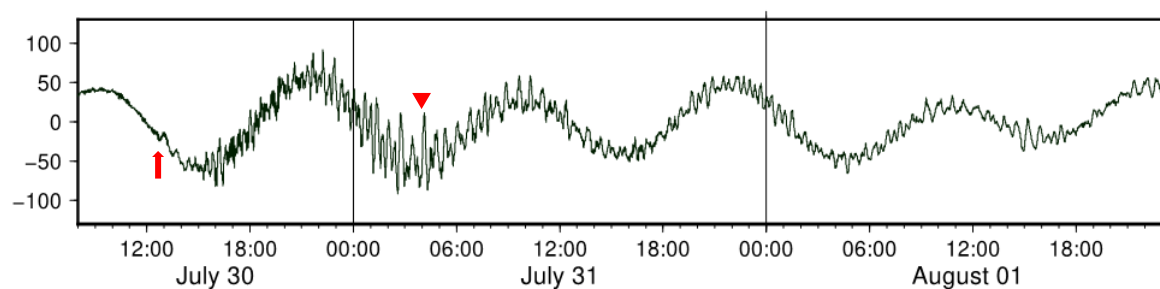


図3 日本国内の主な津波波形（2025年7月30日08時から8月1日23時30分まで）（続き）
縦軸は津波の高さ（cm）。港）は国土交通省港湾局の所属であることを表す。

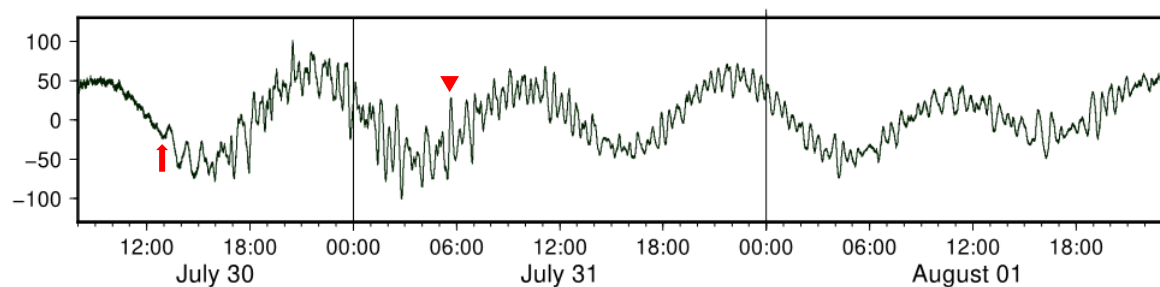
串本町袋港



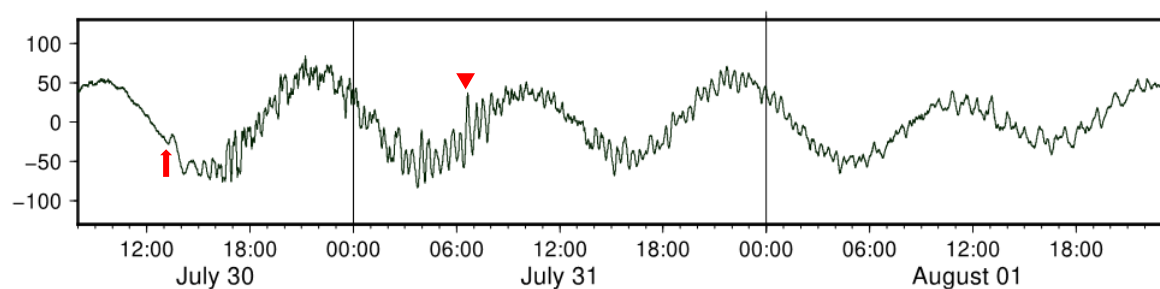
土佐清水



港) 宮崎港



港) 志布志港



種子島熊野

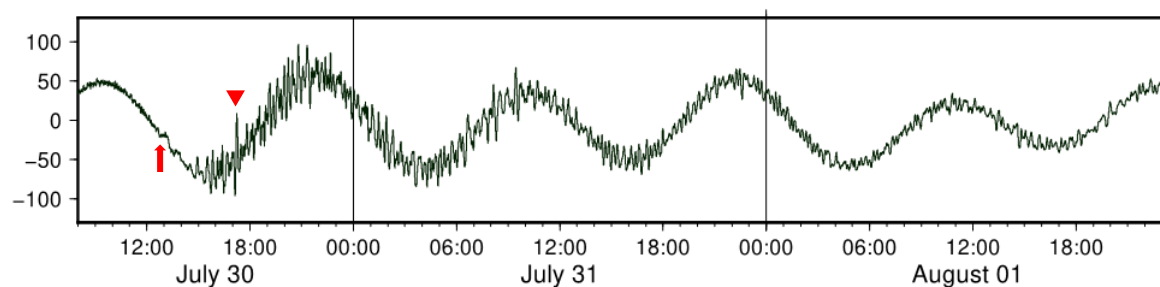


図3 日本国内の主な津波波形（2025年7月30日08時から8月1日23時30分まで）（続き）
縦軸は津波の高さ（cm）。港）は国土交通省港湾局の所属であることを表す。

奄美市小湊

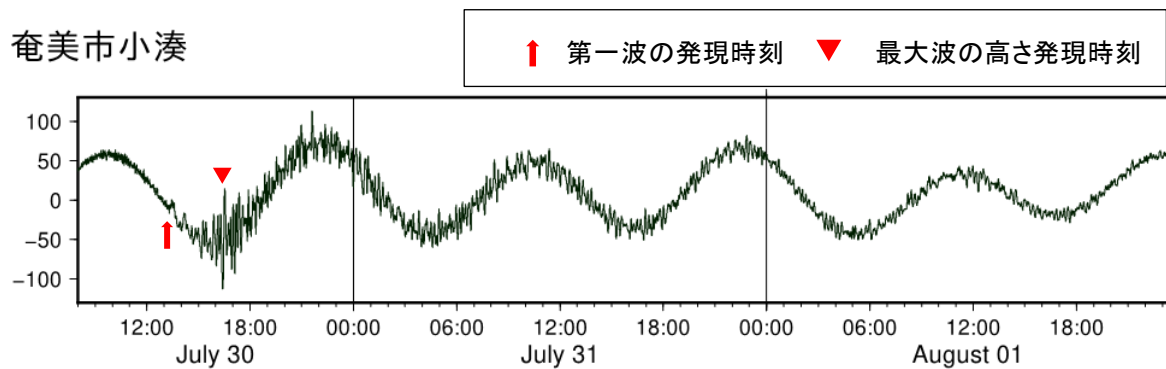


図3 日本国内の主な津波波形（2025年7月30日08時から8月1日23時30分まで）（続き）
縦軸は津波の高さ（cm）。

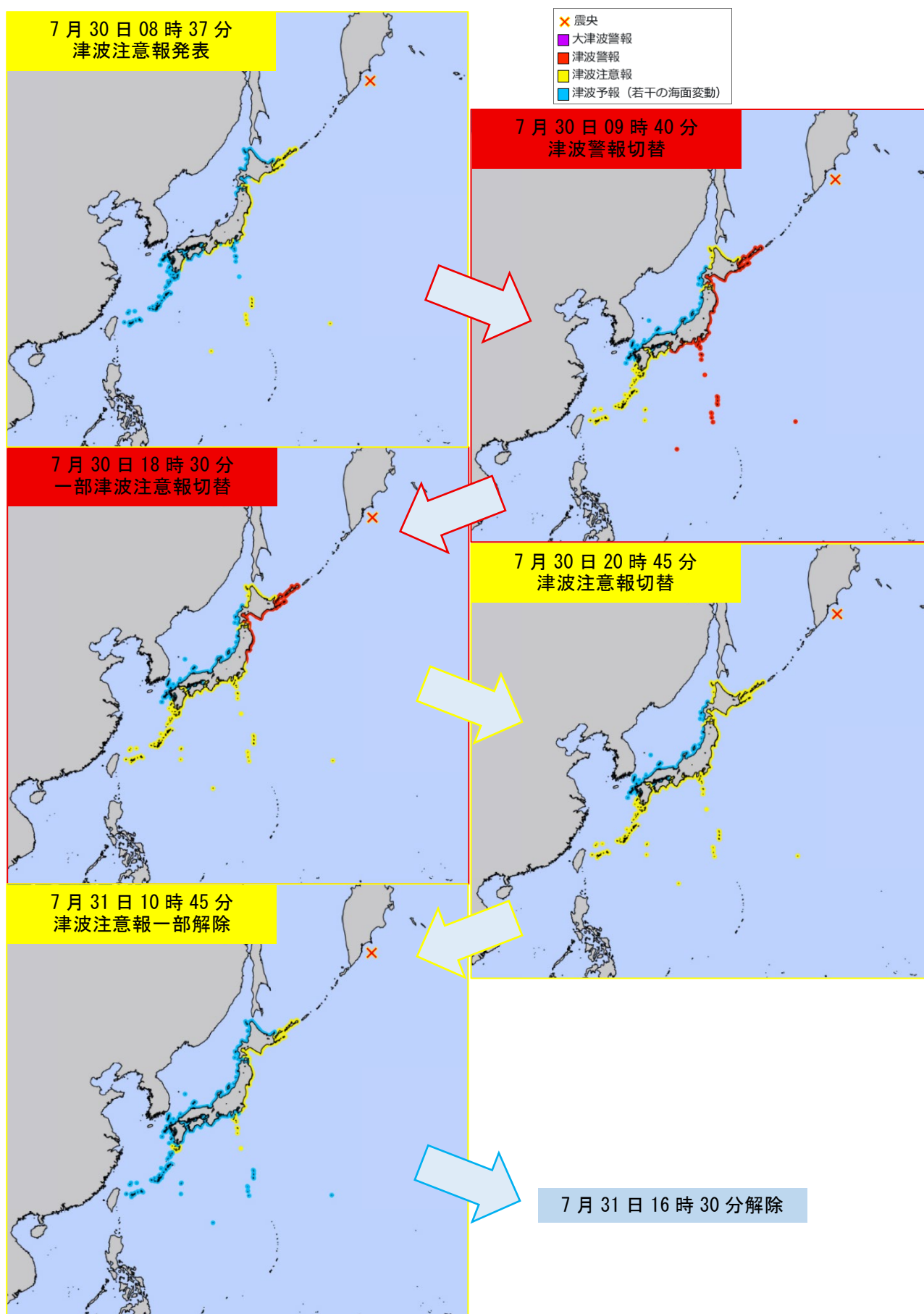


図4 2025年7月30日のロシア、カムチャツカ半島東方沖の地震に対して発表した津波警報・注意報

表2 海外の主な津波観測施設の津波観測値（最大の高さ1m以上を観測した地点を表示）
※観測値は米国海洋大気庁（NOAA）による（2025年10月1日現在）

検潮所	国	最大の高さ（m）
ヴォドパドナヤ（カムチャツカ地方）	ロシア	5
ロパトカ（カムチャツカ地方）	ロシア	3
ボイエルカ	チリ	2.5
カフルイ（ハワイ、マウイ島）	アメリカ	1.74
セミヤチク（カムチャツカ地方）	ロシア	1.64
タルカワノ	チリ	1.6
ヒロ（ハワイ島）	アメリカ	1.5
ヌク・ヒヴァ（マルケサス諸島）	フランス	1.4
コキンボ	チリ	1.34
ハレイワ（ハワイ、オアフ島）	アメリカ	1.21
クレセントシティ（カリフォルニア州）	アメリカ	1.21
ハナレイ（ハワイ、カウアイ島）	アメリカ	1.17
コリウモ	チリ	1.15
キンテロ	チリ	1.12
バルトラ島	エクアドル	1.04
コロネル	チリ	1.03
プンタ・デ・チョロス	チリ	1.01
プエルト・アルデア	チリ	1

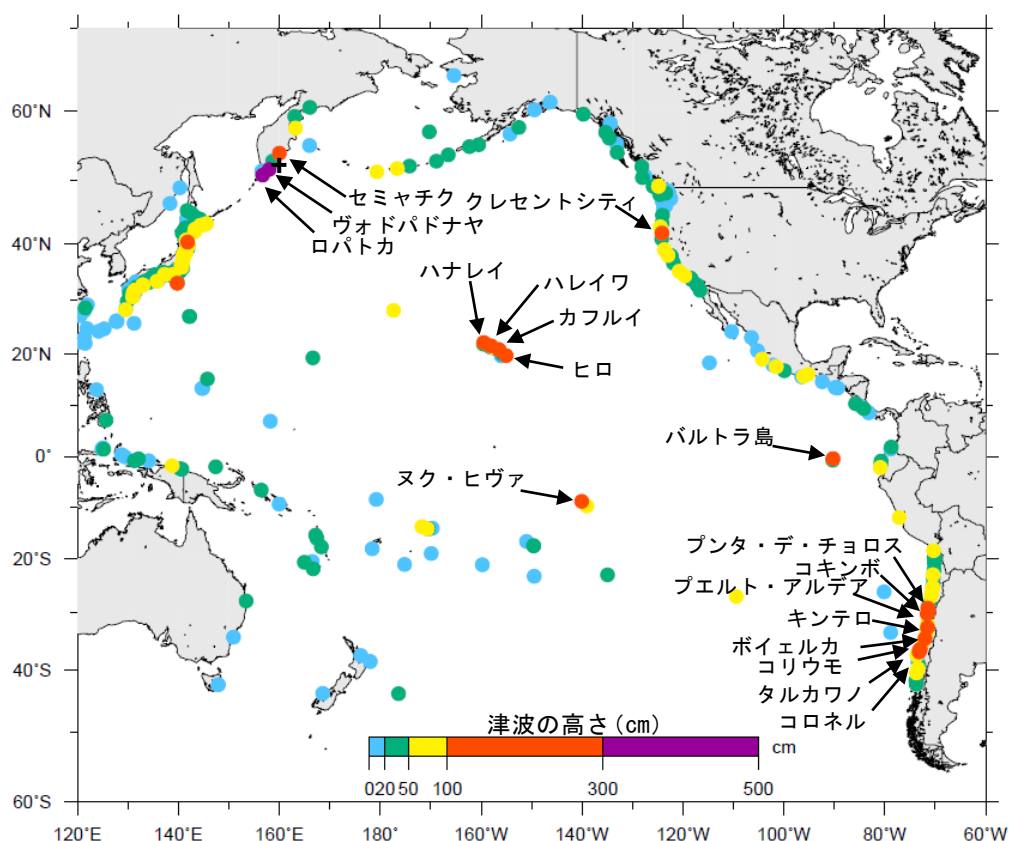


図5 海外の津波観測施設で観測した津波の最大の高さ
（最大の高さ100cm以上を観測した海外の地点については観測点名を表記、+印は震央を表す）
※海外の津波観測施設の観測値は米国海洋大気庁（NOAA）による（2025年10月1日現在）

気象庁作成

2025 年 9 月 1 日 アフガニスタン南東部の地震

(1) 概要及び最近の地震活動 (注1)

2025 年 9 月 1 日 04 時 17 分 (日本時間、以下同じ) にアフガニスタン南東部の深さ 8 km で Mw6.0 の地震 (Mw は Global CMT によるモーメントマグニチュード) が発生した。この地震は、発震機構 (Global CMT による) が北北西-南南東方向に圧力軸を持つ逆断層型である。今回の地震により、死者 1,992 人、負傷者 3,631 人などの被害が生じた (被害は、2025 年 10 月 6 日現在、国連人道問題調整事務所による)。

今回の地震の震央周辺は、北側にあるユーラシアプレートに対して、南側にあるインド・オーストラリアプレートが北北東方向に移動して衝突する地域であり、地震活動が活発な地域である。

1980 年以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近 (図 1-1 の領域 a) では M6.0 以上の地震が時々発生しており、2005 年 10 月 8 日には Mw7.6 の地震が発生し、死者 86,000 人以上などの被害が生じた。2022 年 6 月 22 日には Mw6.1 の地震が発生し、死者 1,036 人などの被害が生じた。

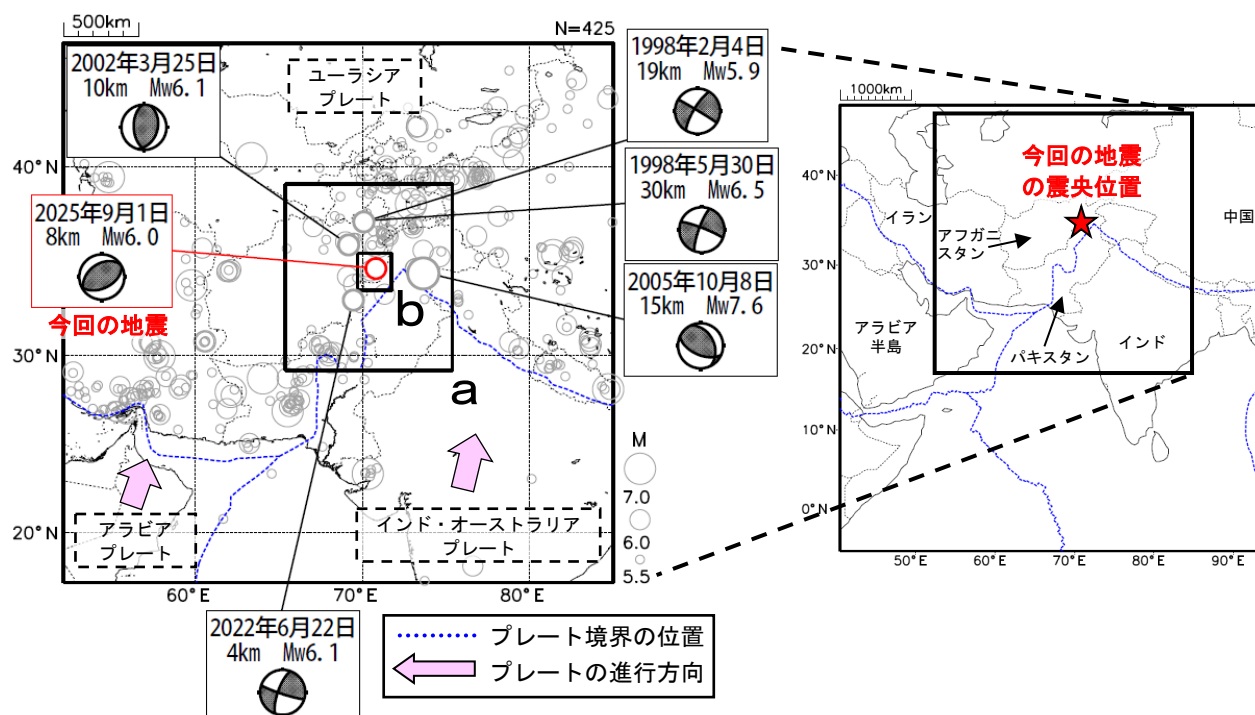


図 1-1 震央分布図 (1980 年 1 月 1 日~2025 年 9 月 30 日、深さ 0~100km、 $M \geq 5.5$)
2025 年 9 月の地震を赤く表示。吹き出しは領域 a 内で被害が死者 1,000 人以上の地震。

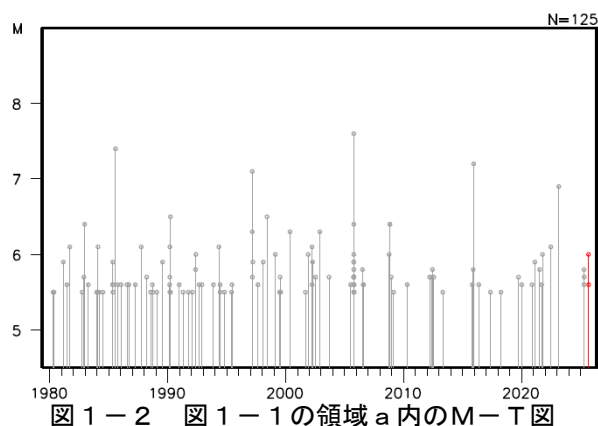


図 1-2 図 1-1 の領域 a 内の M-T 図

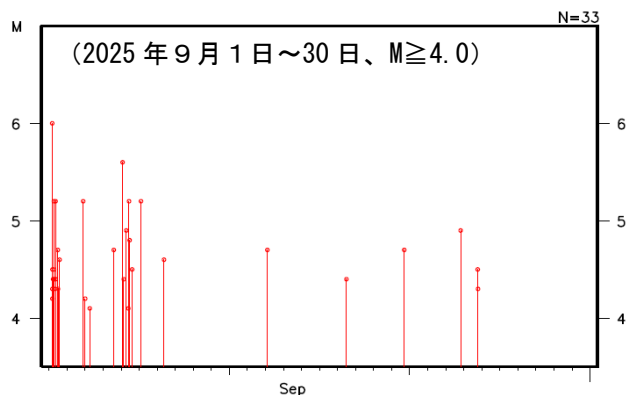


図 1-3 図 1-1 の領域 b 内の M-T 図

(注1) 震源要素は、2021 年までは ISC-GEM Global Instrumental Earthquake Catalogue Version 12(1904-2021)、2022 年以降は米国地質調査所 (USGS) による (2025 年 10 月 1 日現在)。ただし、吹き出しを付けた地震の発震機構及び Mw は Global CMT による。地震の被害は、今回の地震と 2022 年 6 月 22 日の地震の被害は、OCHA (UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs: 国連人道問題調整事務所、2025 年 10 月 6 日現在)、2005 年 10 月 8 日の地震の被害は理科年表、その他の地震は宇津及び国際地震工学センターの「世界の被害地震の表」による。プレート境界の位置とプレートの進行方向は Bird (2003)*1 より引用。

*1 参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.

（２）今回の地震の発震機構（注２）

今回の地震の震央周辺の発震機構の分布を見ると、概ね北北西－南南東方向に圧力軸を持つ逆断層または横ずれ断層型の地震が多く発生している（図２－１、図２－２）。今回の地震の発震機構は北北西－南南東方向に圧力軸を持つ逆断層型であり、これまでの地震の傾向と調和的である。

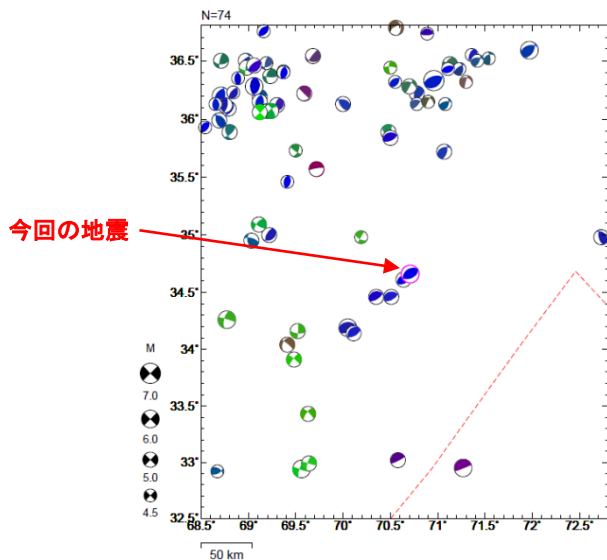


図２－１ 発震機構分布図

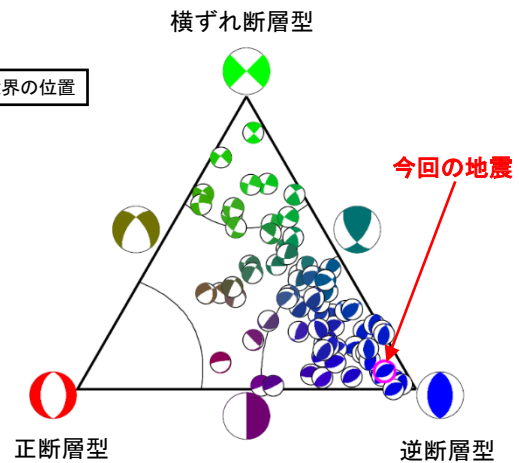


図２－２ 発震機構の型の分布

（1980年1月1日～2025年9月30日、深さ0～100km、 $M \geq 4.5$ ）

正断層型の地震を赤色、逆断層型の地震を青色、横ずれ断層型の地震を緑色で表示（Frohlich(2001)による分類）。

（注２）震源要素及び発震機構は Global CMT による。震源の位置はセントロイドの位置。プレート境界の位置は Bird*（2003）より引用。

*参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.

(3) 過去に発生した主な地震 (注3)

1904 年以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近 (図 3-1 の領域 c) では、M6.0 以上の地震がしばしば発生しており、死者 1,000 人以上となるような大きな被害をもたらす地震が多く発生している (図 3-1、図 3-2)。

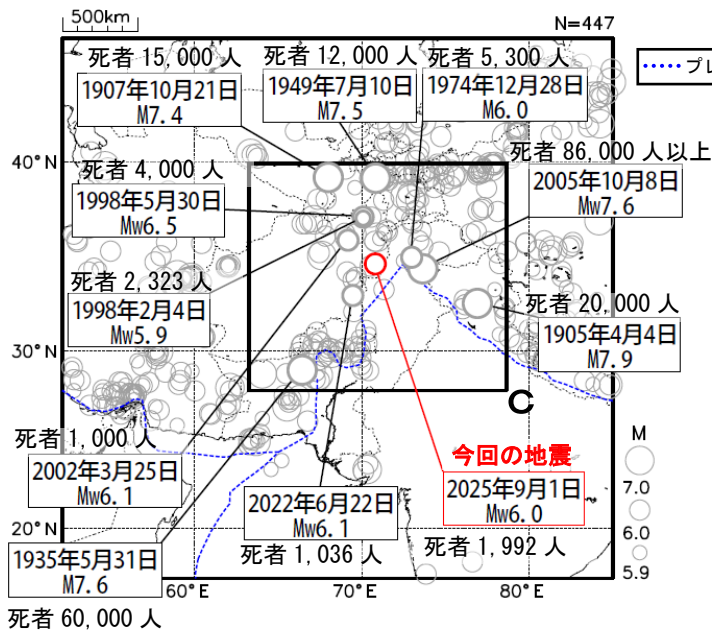


図 3-1 震央分布図 (1904 年 1 月 1 日～2025 年 9 月 30 日、深さ 0～100km、 $M \geq 5.9$)
2025 年 9 月の地震を赤く表示。
吹き出しは領域 c 内で被害が死者 1,000 人以上の地震。

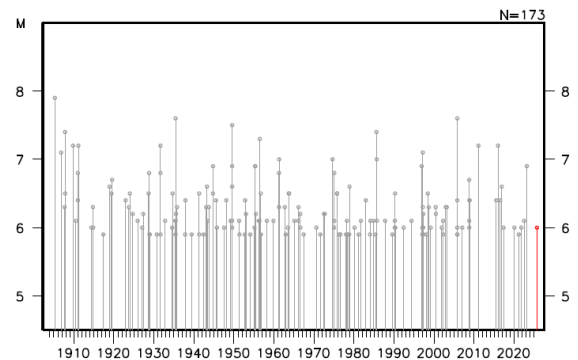


図 3-2 図 3-1 の領域 c 内の M-T 図

(注3) 震源要素は、2021 年までは ISC-GEM Global Instrumental Earthquake Catalogue Version 12(1904-2021)、2022 年以降は米国地質調査所 (USGS) による (2025 年 10 月 1 日現在)。ただし、吹き出しを付けた地震の Mw は Global CMT による。今回の地震と 2022 年 6 月 22 日の地震の被害は、OCHA (UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs: 国連人道問題調整事務所、2025 年 10 月 1 日現在)、2005 年 10 月 8 日の地震の被害は理科年表、その他の地震は宇津及び国際地震工学センターの「世界の被害地震の表」による。プレート境界の位置は Bird (2003)*1 より引用。

*1 参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.

9月19日 ロシア、カムチャツカ半島東岸の地震

2025年9月19日03時58分（日本時間、以下同じ）にロシア、カムチャツカ半島東岸の深さ20kmでMw7.8（Mwは気象庁によるモーメントマグニチュード）の地震が発生した。この地震の発震機構（気象庁によるCMT解）は北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと北米プレートの境界で発生した。この地震により、ハワイのマウイ島で0.28mなどの津波を観測した。

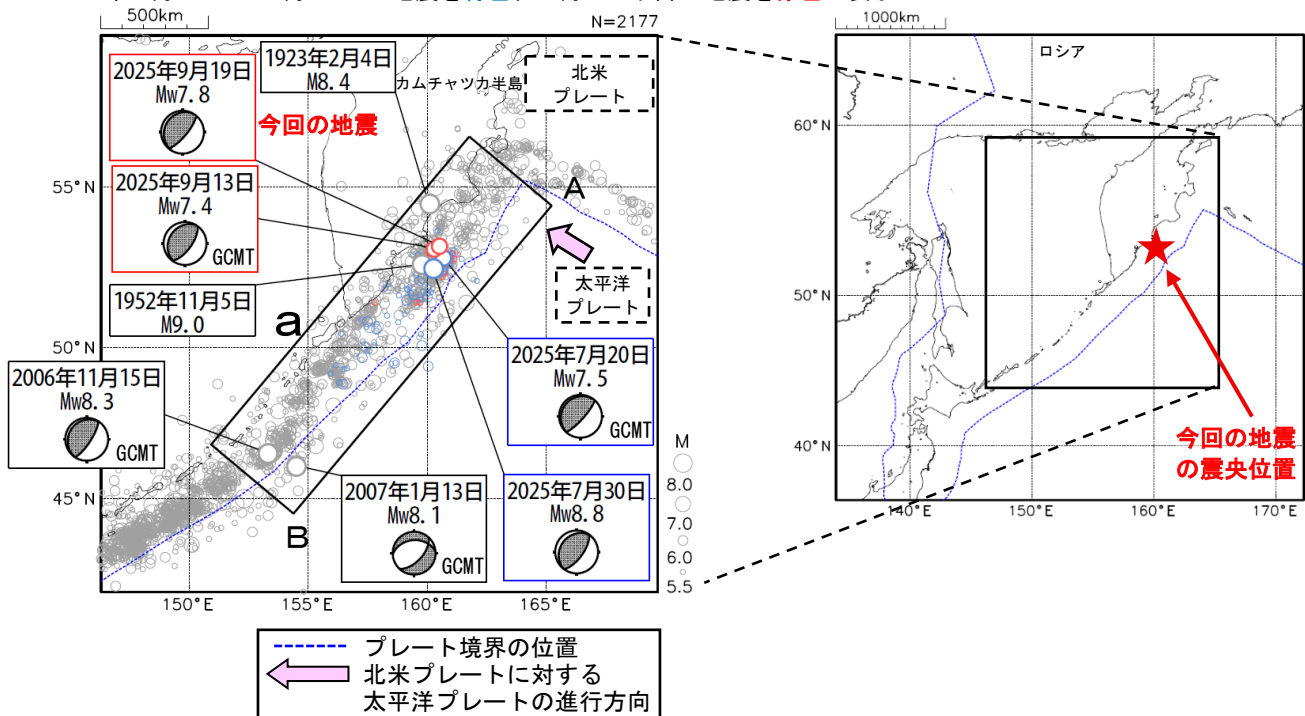
今回の地震の震央付近では、2025年7月20日15時49分にMw7.5（MwはGlobal CMTによる）の地震が、7月30日08時24分にMw8.8（Mwは気象庁による）の地震が発生し、地震活動が活発になった。また、2025年9月13日11時37分にMw7.4（MwはGlobal CMTによる）の地震が発生した。

1904年以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近では、M7.0以上の地震が時々発生している。1952年11月5日にはロシア、カムチャツカ半島東方沖でM9.0の地震が発生し、北海道から九州の太平洋沿岸を中心に津波を観測した。各地で家屋の浸水があり、計1200棟に達するなどの被害が生じた（被害は、「日本被害地震総覧」による）。

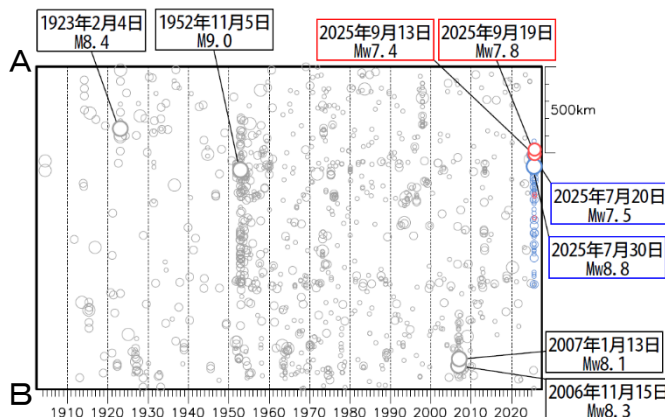
震央分布図

（1904年1月1日～2025年9月30日、深さ0～200km、M≥5.5）

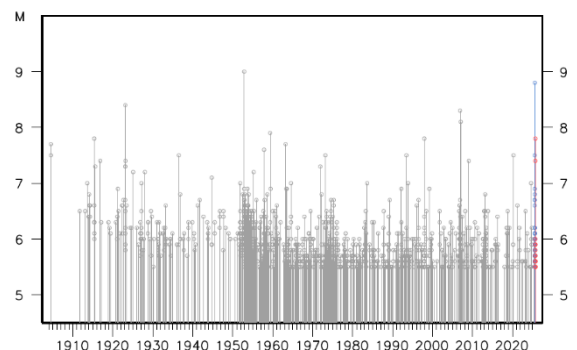
2025年7月20日～8月31日の地震を青色、9月1日以降の地震を赤色で表示



領域a内の時空間分布図（A-B投影）



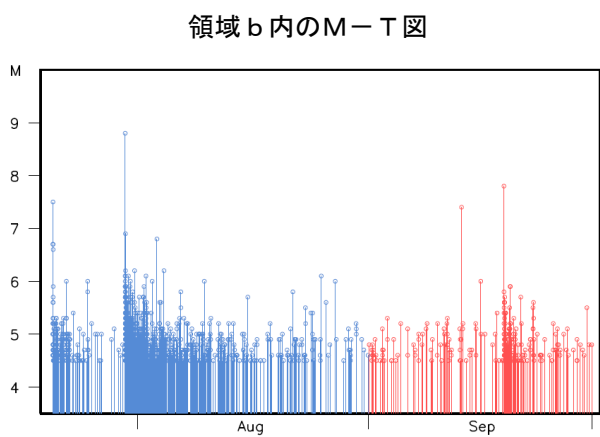
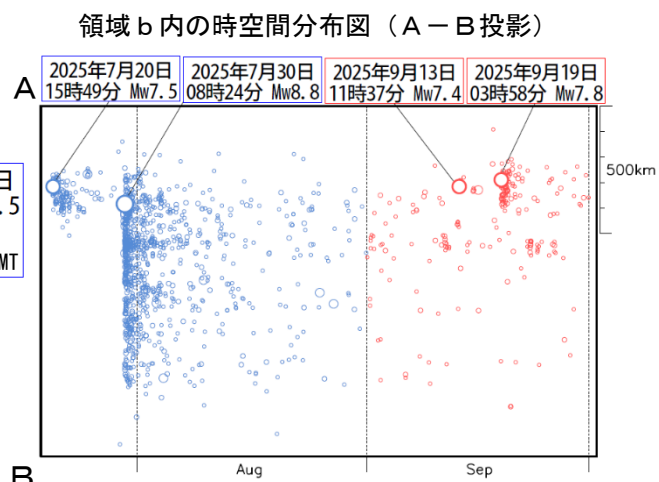
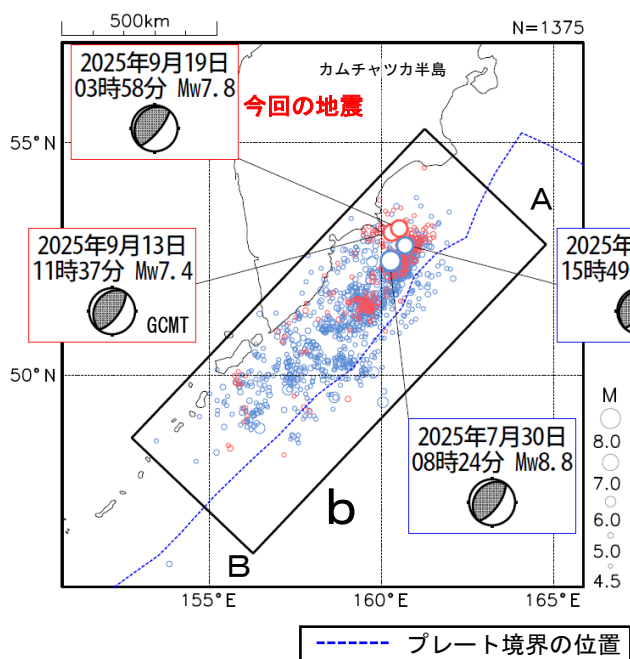
領域a内のM-T図



※震源要素は、2021年まではISC-GEM Global Instrumental Earthquake Catalogue Version 12（1904-2021）、2022年以降は米国地質調査所（USGS）による（2025年10月1日現在）。ただし、吹き出しを付けた地震のうち、1952年11月5日の地震のMはUSGS、2006年11月15日、2007年1月13日、2025年7月20日及び同年9月13日の地震のMw及び発震機構はGlobal CMTによる。2025年7月30日08時24分及び今回の地震のMw及び発震機構は気象庁による。なお、1904年から1959年ごろまでの地震の検知能力はM6.0程度である。海外の津波の高さは米国海洋大気庁（NOAA）による（2025年10月1日現在）。プレート境界の位置とプレートの進行方向はBird（2003）*1より引用。

*1 参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.

震央分布図
 (2025 年 7 月 20 日～9 月 30 日、深さ 0～200km、 $M \geq 4.5$)
 2025 年 7 月 20 日～8 月 31 日の地震を青色、
 9 月 1 日以降の地震を赤色で表示



9月30日 フィリピン諸島、レイテの地震

2025年9月30日22時59分（日本時間、以下同じ）にフィリピン諸島、レイテの深さ10kmでMw6.9（Mwは気象庁によるモーメントマグニチュード）の地震が発生した。この地震の発震機構（気象庁による）は東西方向に圧力軸を持つ横ずれ断層型である。

気象庁は、この地震に対して、同日23時18分に北西太平洋津波情報を発表した。また、同日23時20分に遠地地震に関する情報（日本への津波の影響なし）を発表した。また、この地震により、死者68人等の被害を生じた。

2001年以降の活動をみると、今回の地震の震央付近（領域a）では、M6.0以上の地震が時々発生している。

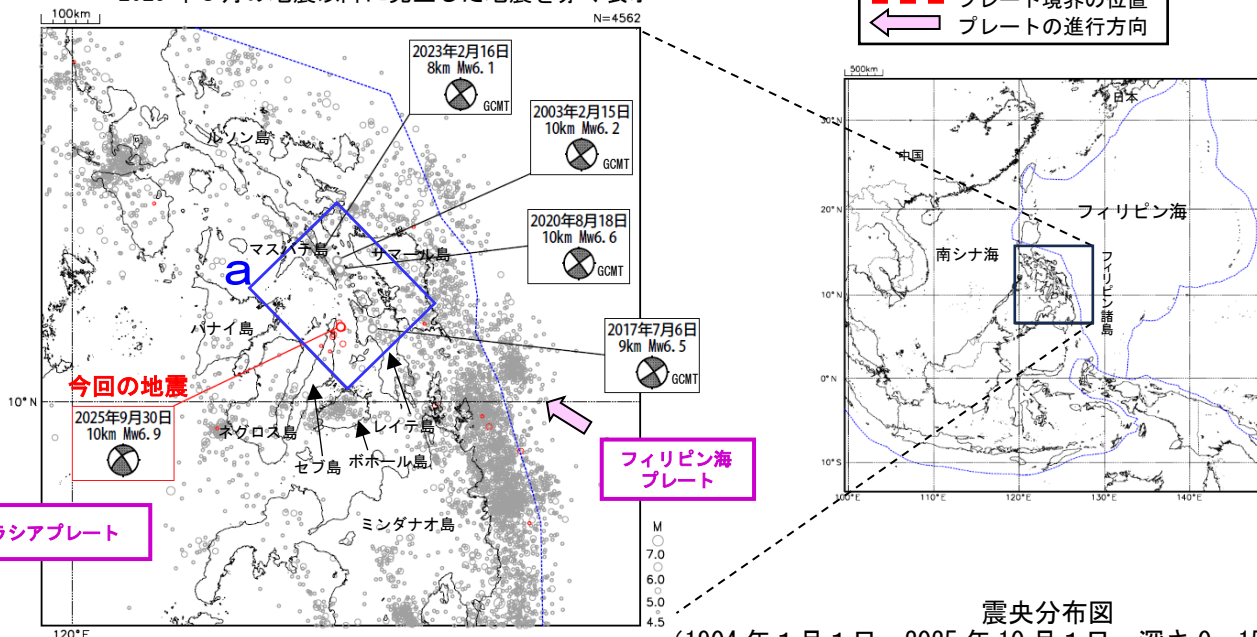
1904年以降の活動をみると、今回の地震の震央付近（領域b）では、M7を超える地震が時々発生している。2013年10月15日に発生したMw7.1の地震（Mwは気象庁による）により、死者222人等の被害が生じた。

震央分布図

(2001年1月1日～2025年10月1日、深さ0～150km、 $M \geq 4.5$)

2025年9月の地震以降に発生した地震を赤く表示

--- プレート境界の位置
← プレートの進行方向

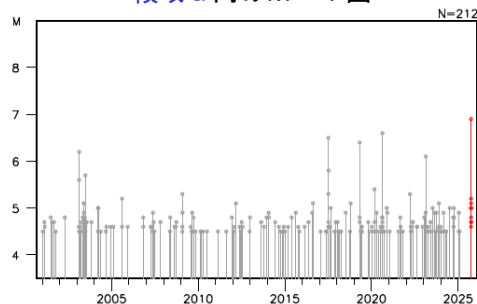


震央分布図

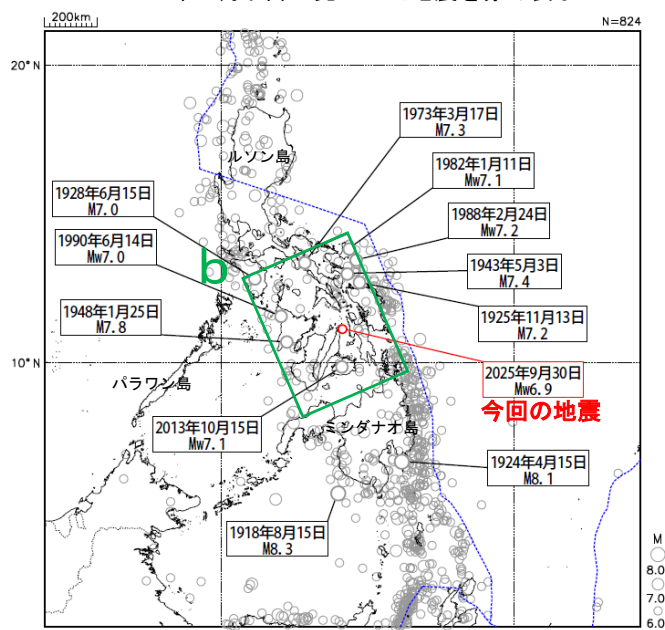
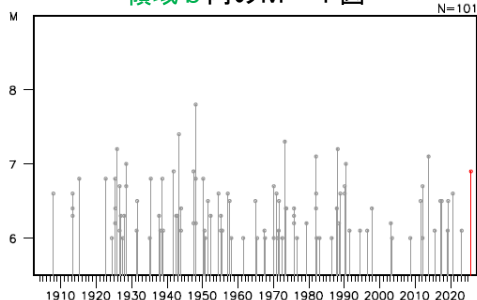
(1904年1月1日～2025年10月1日、深さ0～150km、 $M \geq 6.0$)

2025年9月以降に発生した地震を赤く表示

領域a内のM-T図



領域b内のM-T図



※本資料中、2013年10月15日の地震と今回の地震のMwは気象庁による、また図中のその他の吹き出しの地震のMwはGlobal CMTによる。今回の地震の発震機構は気象庁による、その他の吹き出しの地震の発震機構はGlobal CMTによる。震源要素は、2001年以降の活動を示した図（上図）については米国地質調査所（USGS）による（2025年10月2日現在）。一方、1904年以降の活動を示した図（下図）については、2021年まではISCSEM Global Instrumental Earthquake Catalogue Version 12(1904～2021)、2022年以降はUSGSによる（2025年10月2日現在）。また今回の地震の被害は、OCHA（UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs：国連人道問題調整事務所）による（2025年10月3日現在）。その他の地震の被害は、宇津及び国際地震工学センターの「世界の被害地震の表」による。プレート境界の位置と進行方向はBird（2003）*より引用。

* 参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.